

描画指導等における重点の考察

— 小学校描画指導に繋がる幼児期の造形表現活動について —

安藤 恭子

1. はじめに

描画の表現活動は、常に、感受と一体のものであらねばならない。単に外形だけを写し取るものでもなく指導者のお手本のようなものを真似るものであってはならない。その表現活動を通して、子どもたちは、造形的な創造活動の基礎を培い、創り出す喜びを味わうものとする。

はじめに子どもたちと描いていく対象との感動的な出会いを設定することが大切である。次に学びに向かう主体的な力がつく過程を工夫することで、イメージを広げたり深めたりしながら、一人一人が目標を持ち、粘り強く表現していくことが大切になる。その過程の中で指導者はいかに授業を創造するかが課題となる。

具体的には、描画の表現過程において、どんな時期に、どこに重点を置いてどのように指導すればよいか、指導の重点を考察することが、子どもたちが表現の喜びを一層深く味わったり造形的な創造活動の基礎を培うことになる。

私はそれに迫り得る指導の手立て（手立ては、はからずも現在、新学習指導要領等で注目されている「学びに向かう力が付くすべ」に通じる。）を考察し続けてきた。とりわけ、私は小学校における実践を48年前より行い続けているので、現在の幼児期の実践の繋がりとして概要を記す。

2. 小学校における描画指導の重点の概要

表現過程とは下図のようにおよそ6つの過程が考えられるがそれぞれの過程にも鑑賞等が入っている。

| 対象の感知 | 主題の把握 | 構想の練り上げ | 形象化 | 彩色 | 鑑賞 |
|-------|-------|---------|-----|----|----|
|-------|-------|---------|-----|----|----|

低学年（1学年、2学年）

喜びと満足感のある表現ができる子を目指して

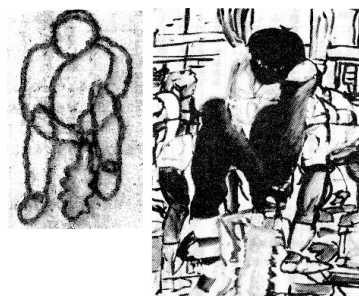
- ◎題材に合わせた描画材料の組合せ
- ◎対象を直（じか）に感じ取る場の設定
- ◎気を入れて描く部分の意識づけ



中学年（3 学年、4 学年）

実感のある形象化ができる子を目指して

- ◎生活を見つめる題材の開拓
- ◎主題のエキスをキャッチフレーズ化
- ◎自信を持って描くためのモールドによる構成図



高学年（5 学年、6 学年）

情感のある彩色ができる子を目指して

◎2 段階方式による授業構造

「2 段階方式」とは……

試し描き①→試し描き②（①と②を比べ決断）→本番

※新学習指導で着目されている「別のものとを対比させることにより、問題が発見でき、主体的に学ぶこととなる。これは問題発見の学びの「すべ」であり、これからの教師が仕掛けていく内容とも言える。

◎彩色 3 つのまどの設置による彩色の目安づけ

「彩色 3 つのまど」とは……

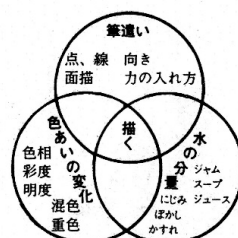
〈まどⅠ〉 筆づかい テンテン、スースー、ベツタリ等

〈まどⅡ〉 色合い 色相、混色、重色、鮮やかさ等

〈まどⅢ〉 水の分量 食べ物にたとえて…ジュース、スープ、ジャム

※食べ物に例えたことで子どもと先生、子どもと子どもの合言葉としてかなり広範囲にわたり、定着して喜ばれている。「先生、私は、ここをジャムで描いて周りをジュースで描いてみたいんですがどうですか？」

「そうですね。このあたりは、スープも合うかなあ。」自分の考えを示し易く助言もし易い。従って、幼児から大人に至るまで習得していった。もちろん、現在、ユマニテク短期大学学生も理解して、彩色時には意識している。



長年にわたり研究してきた描画指導の重点の考察については、かつて研究実践の途中ではあったが、第19回教育美術賞（全国グランプリ）を受賞したこともあり、さらに新学習指導要領の基本的な考え方に鑑みて改善を重ねていくことにしている。

3. 幼児期における造形表現活動の実態と保育者の要望している内容

2017年度、私は、岐阜市保育士協会（公立と私立の協同研修会）年中中部会の講師として三回分（年間四回の内）の依頼を受けた。保育士の先生方の切なるご要望に

お応えすべく役員の方々と打ち合わせて下記の三回の計画を立てて実施した。

- (1) **要望1**・・・「子どもが喜ぶ製作遊び」簡単で身近な材料で誰もができ、作ったもので楽しく遊べる講師オリジナルの工作を紹介してほしい。

8月3日 14:30～16:00 北部コミュニティーセンター

参加人数 33名

要望1に答えて

①身近な物で作った玩具の紹介

- ・紙コップで作ったよく走るアニマルカー
- ・元気の出る魔法のマイク
- ・スタンプグうちわ 等



②「カラフルペットさん」作り

- ・色への興味を持たせ、じぶんの好きな色のお花紙を選ぶ。

子どもの興味・関心・主体性

- ・水のいったペットボトルにお花紙を入れ美しく揺れる様子を楽しんだり、色の組合せの美しさを楽しみながら底に沈めていく。

感性・簡単な技能

- ・目や口等を付けて、自分のカラフルペットさんに名前を付ける。

感性・簡単な技能

③作品で遊ぶ

- ・グループで作品を見合ったり、簡単な劇遊びをしたり、輪投げをしたりして遊ぶ。

子どもたちの協力性・鑑賞する力・言語活動の育成

参加者の感想

これからの製作活動への方向性や意欲が詰まっており実践が期待できる。色への関心が高まり、描画表現へも繋がる。

◎水にお花紙を入れると、水が浸み込み沈んでいく様子が面白く見入ってしまった。すぐに作れるもので、視覚的にもよくて明日からの保育に活かせるものでよかった。

◎身近にあるもので、簡単にできることにびっくりした。自分で色を選べること、中にお花紙を割りばしを使って入れることにワクワクした。デコレーションも一人一人違うので色々な表情のペットちゃんができることや、参加された保育士さんたちの創造力に感動した。

◎使用するお花紙が新品でなくても、入園式や卒園式等で使った物を再利用でき

るところがよいと思った。何でも、“まだ使えるかな？”“何ができるかな？”という考えで見てみるのが大切だと思った。

- ◎講師の先生の感性の豊かさに触れて、楽しく製作ができた。“何を作ってもいいよ。”“それもOKだよ”という保育士側の発想の豊かさや、子どもの表現を認める心の豊かさが子どもの“楽しい”“もっとやりたい”という思いに繋がっていくのだと思った。
- ◎ペットボトルに目や口を付けていくと愛着が湧いてくるので、子どもたちとの製作の中でも自分の作ったものに愛着が持てるような工夫をすると、製作に対しての意欲も増してくると感じた。
- ◎人が大勢集まると、様々なアイデアが出てきて自分では思いつかないようなものも多くあり、すごく感性が磨かれ、面白さを感じた。
- ◎お花紙を使ったカラフルペットさんは、ただ作るだけでなく、輪投げや人形遊び等、多用途に使えることが、すごく良いと思った。工夫次第で一つの玩具を色々な遊びに使えることが分かったので、今使っている玩具も自由な発想で使っていきたい。
- ◎カラフルペットさんを使い終わったらザルに取り出し、平らにして乾燥させれば美しいコースターや花瓶敷きにまで変身することも感動した。
- ◎各保育所等の先生方と輪投げゲームで交流し、子どもの気持ちになって遊ぶことができた。

- (2) **要望2** ……子どもと「一緒に楽しむ絵画遊び」とりわけ水彩絵の具の扱い方について知識が乏しく、子どもに描画材料を与えるだけで、保育士自身は具体的な指導方法などに自信がないので基本的な扱いを教えて欲しい。

10月18日14:30～16:00 北部コミュニティーセンター

参加人数 36名

要望2に答えて

- ①食べ物にたとえて学ぶ水彩絵の具の扱い

ポイントは、水加減

- 絵の具の水加減を伝えるとき、ジャム・スープ・ジュースと食べ物にたとえてつたえるとわかりやすい。

ジャム………原液をそのまま

スープ………少し水をたして

ジュース………たっぷりの水

- 筆は毛筆習字のような持ち方で立てて使うことを基本とする。

○ 筆を使うときに大切なのは、布きん。

役目1 水を拭って筆をうつくしくし、筆先をしっかり整える。

役目2 水彩絵の具は水の調節がいのちなので、筆の水分を布きんで調節する。

②実際に絵を描いてみましょう

「白い画用紙に雪だるまを描く方法とは？」

○ 青色のジャムで雪だるまの輪郭を描く→雪だるまの周りを青色のスープで塗る。→青色のジュースで影を描く。→白色のジャムで雪を降らす。→パスやクレヨンで顔やマフラー等自由に描き入れる。

「たった二秒で絵を描く魔法とは？」

○ 型紙（かき氷）を当て、水性カラースプレーをかける。（約二秒）→本日学んだ赤色のジャム、スープ、ジュースの順にかき氷に苺シロップをかけるように上部から順に塗っていく。→パスやクレヨンでフルーツ等自由に描き入れる。

③並べて見せ合って楽しみましょう

○ 様々な表現やアイデアを知ってそれぞれのよさを楽しむ。これからの表現の参考にする。

参加者の感想

描画については、きちんと考えたり指導してもらうことが少なく実技を通してながら指導の重点が考察でき、現場に持ち帰って意欲的に実践できることが期待できる。

◎絵を描くことに対して、教えてもらったことがないので悩みながら取り組むことが多かったが今回実践しながら教わったことで現場での指導に生かしていけると確信できた。

◎水彩絵の具の使い方について、説明しづらい水の分量を子どもたちに伝えるにはジャム、スープ、ジュースという食べ物に例えると、とてもわかりやすいと思いました。また、筆の拭き方についても「お風呂から出た時はどうするかな？」と自分の体に置き換えて伝えていくこともわかりやすいと思いました。

◎今までは、指導者側が水の量を調節して用意していましたが、子どもたち自身が筆を使い、固さの違いを知る経験ができると、より一層、絵画遊びに興味を持つだろうと思いました。

◎水の量に着目し、3段階に分けて使うことがなかったので基礎を知るよい経験になりました。水加減で色合いまで変化するのが面白く、楽しい時間となりました。

- ◎雪だるまの絵は同じ手順なのに、一人一人の個性が出ていてとても素敵でした。
描く手順があると絵が苦手な子どもも取り組みやすく、描く楽しさが味わえると思うので是非試してみたいです。
- ◎絵を描くことが目的ではなく、表現を楽しむことを大切にしていこうと、保育士も子どもも楽しんでいけると思いました。
- ◎作品を見せ合う場というものが大切であるということ学びました。他の先生方の作品から得ることがたくさんありました。

(3) **要望3**＜公開保育＞ 加納西認定こども園 きりん組（20名）

師範保育 保育者 安藤恭子

年中児の絵の具を使った活動を参観したい！！

描画製作活動の在り方とりわけ、絵の具を扱った保育の様子を研究したり参観したりする機会がほとんどないので師範して欲しい。「ここは赤を塗りましょう」などと一斉に同じ色を塗らせてきた。一人一人が楽しんで個性が発揮でき、思いや願いをもとに描き広げていく喜びをもたせてやりたい。その中で絵の具で描くことを経験し、年中児なりの技術を獲得させたい。

11月22日 10:00～10:40 …保育

10:50～12:00…研究会

参加者 42名

要望3に答えて

会員の誰かが公開保育を行い、講師である私が内容について指導するのが一般的であるが、「本当に描画の指導はどうしてよいかわからないのです。お願いですから安藤先生が公開保育を引き受けてください。」と会員の皆さんからの強い要望があり、日頃の持論が本物かどうか証明するためにも思い切って引き受けた。

造形表現の中でも題材がいのちの描画製作活動。「簡単なストーリーを創造することで、ワクワク感を持ち、願いを持って気持ちがこもった描画製作活動ができるように促す。」このことをキーワードとした。

題材……「おばあさんのふしぎな木」

自然木の薄皮を使った貼り絵とパス及び水彩絵の具を使った画材混合型絵画

1. 題材について

加納西認定こども園では「お話すること」「集中すること」「コミュニケーションをとること」など基本的な生活が身に付けられるようにモンテッソリー教育の考えを取り入れ居心地の良い環境づくりをしている。木育に力が注がれ、木とのふれあい活動

を楽しみ、木の「幹」や「枝」などの言葉も豊かに体得している。また、絵画教室では専門家に指導してもらっているため、年中児には共同絵の具を扱うことが多い中、各自が個人の絵の具道具を一式持っている。従って筆使いやパレットと絵の具の出し方、水入れ、布きんについて年中児らしい約束事を体得している。

そのような実態を踏まえ、今回の描画製作活動を感動的に実施し、当認定こども園の目指す豊かな感覚や自己表現力にアプローチしたい。

より豊かな表現に迫り、一人一人が自分らしさを発揮しながら表現し続けることができるように、私がこうして欲しい、ああして欲しいと直接指導する方法ではなく、ストーリー性を持たせ親しみやすい動物たちを登場させて、制作活動を充実させ、一人一人の思いや願いをこめた働きかけにしたい。そして、三種類の画材「貼り絵、パス、絵の具」に自然と形象化できる助けにしたいと考えた。

◎目標→おばあちゃんが喜ぶように、一人一人が夢中になって、木の幹を貼り、元気な枝をパスで描き、葉っぱやお花や実を絵の具でいっぱい描くことにより、気持ちがかもった製作活動ができるようにする。

1. 木の貼り絵の大好きな92歳のおばあさんが「みなさんにプレゼントだよ。」と一人一人に木の貼り絵をくださった。その木は太い幹だ。(木育で、幹や枝を認識している。)

2. おばあさんからの願いをおばあさんの友だち犬のしばくんが伝える。「木たちがこんなこと話していたよ。『枝がほしいねえ。いっぱい、いっぱい欲しいねえ。』そこでおばあさんは、木たちに約束したよ。『そうかい、そうかい。子どもたちに頼んであげるよ』」

頼まれた子どもたちは、「いいよ!! 任せて!! 描くよ。」しばくと一緒に心を込めて好きな色で好きな形のパスで思い思いの枝を描く。

さて、本日は……………(11月22日)

3. おばあさんの友だち犬の【しばくん】友だち猫の【ミーちゃん】が子どもたちをお願いにやってくる。(安藤がぬいぐるみを持って登場、人形劇風に演技。)

□ しばくん 「みんなが枝を元気よく、きれいにいっぱい描いてくれておばあさんがとても喜んでいたよ。今日は、おばあさんの友だち猫のミーちゃんも一緒にきたよ。」

ミーちゃん「私は、木の声が聞こえる魔法の猫です。木たちがお話していたよ。

『枝ができてうれしいね。うれしいね。次は葉っぱがほしいなあ。きれいな花も咲かせたいな。おいしい実もならせたいな。』ってね。」

しばくん「わぁーい！描きたいなあ。今日は絵の具が使いたいなあ。」

——しばくんとミーちゃんは、子どもたちの考えやアイデアを聞きながら絵の具を使った葉っぱや花や実を描くパフォーマンスをしてポイントを押さえる。——

子どもたちの声 ・太い筆に水を付けちょんちょんとパレットの落とすんだよ。

・パレットのお部屋で絵の具を混ぜるんだよ。

・筆はよく洗って布きんでしっかり拭くんだよ。等

◎ 子どもたちはどんどん自分の世界に入り込み描き進める。

ポイント…子どもたちがしばくんとミーちゃんに教えてくれることをもとに位置付ける

ア 画材の準備 水彩絵の具 パレット 筆大小一本ずつ

筆洗い 布きん

イ 絵の具の扱い方 ・お水は友だち

・好きな色を出してパレットで混ぜる。

・色を変える時は必ず筆を洗う。

・洗った筆は必ず布きんで拭う。

ウ 筆使い クルクル サッサッ テンテン ペタペタ

しばくんとミーちゃんと一緒にみんなの作品を見あうお散歩タイム（鑑賞）

・散歩できるゆったりとした空間がある。

・友だちの表現のよさを感じ取り、自分の表現の幅を広げたり、困っていたことの解決に繋げる

参加者の感想

理論だけでなく実際の描画製作活動が参観でき、この時期に付けていく力をどのような「すべ」を示すことにより、子どもたちが獲得していくか、小学校への繋がりも感じ取ることができた。

ストーリーを楽しみながら自分の表現世界を創り出す姿を目の当たりにした。

お散歩タイムは小学校の鑑賞に値する重要なタイムである。

◎ 導入から、人形を使った自然な形の絵の具などの扱いの確認、実際に描く姿まで見せてもらえたことで、保育に活かしやすかったです。

- ◎ ポイントを押さえつつ、一人一人のイメージをのびのびと表現させていく指導が素晴らしかったです。
- ◎ ストーリー性を持たせることでイメージが広がりやすく「描きたい」という意欲が引き出されていたと思いました。
- ◎ 絵画活動については、実際の保育を参観することは機会がとても少ないので今回子どもが興味を持つようなストーリー性のある絵の描き方、声かけの仕方、絵の具の使用に際してのわかりやすい伝え方等、全てがとても参考になりました。また、普段しっかりと意識して保育できない自分をふり返ることもでき、大変、有意義な時間になりました。
- ◎ 子どもたちの“塗りたい色を塗らせる。子ども主体の絵がとても印象的でした。
- ◎ 作品を見合うお散歩タイムは、他の子の作品を見て、子どもたちが様々なことを感じる時間であったように思います。絵画に限らず製作などにも取り入れてみたいと思いました。
- ◎ 絵画の指導の仕方に自信がなく、これでよかったかなと悩むことが多かったが先生の姿から一人一人の表現を否定せず認めていくことの大切さを学びました。

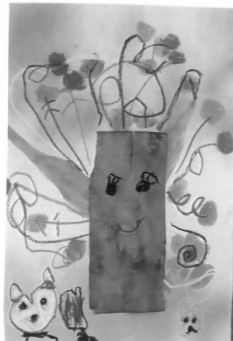
一年間のまとめ

- ☆一年を通し、四歳児の発達や描画について教えて頂き、即、実践に活かしました。
- ☆造形表現という一貫性のあるテーマで学びを深めることができました。
- ☆楽しみながらスキルアップでき、すぐ実践できる内容で今後の保育に活かしていきたいです。
- ☆一年を通しての造形表現の研修の中で、なかなか知ることのできないことを、一つ一つ丁寧に教わることができました。学んだことを実際に園で行ってみたことで、子どもが楽しく絵の具を使ったり、パスを擦り切れるまで使って描いたりする姿を、新鮮に見られるようになりました。





ふしぎな木が いっぱい!!



ぼくと
おばあさんの
ふしぎな木



見てく、見てく



4. 幼児期における造形表現活動の重点の考察（年中児の場合）

年間を通して年中児の保育士さんたちと、子どもたちがいかに自分らしさを発揮して生き生きと造形表現を楽しむことができるか、さらには、その子なりの捉えたイメージを広げたり、深めたりしながら表現へと繋がらないかを考察してきた。

その結果、次のような手立てが効果的であると子どもたちの作品や生き生きとした活動の様子から実感した。

◇身近な材料と造形的な視点のもと、様々な形で感動的な関わりを持つ。その際、色や形に着目できる活動の工夫をする。

◇絵の具の使い方など、基本的な内容を製作の過程で楽しみながら身に付ける工夫をする。

◇題材を創造する際、表現意欲が増したり、想像力が豊かになったり、表現の内容が高まったりするには、ストーリー性を持たせるなどの子どもたちの発達段階に合った工夫をする。

◇小学校の鑑賞に繋がるおさんぽタイムを設けることで、お互いのよさを感じ合い、自分の表現も豊かになる。

